



## 西村クリニック便り 第114号

今年のNHK大河ドラマは「光る君へ」というタイトルで前回の戦国時代の徳川家康とうってかわって紫式部を主人公に平安貴族の生活を描いたものであります。先日その「光る君へ」を見ていた所何とあの有名な「香炉峰の雪」の一節が出てきました。中国唐の時代左遷された白居易（白楽天）が香炉峰のふもとに新居を構え詠んだ詩の中に「香炉峰の雪は簾をかかげて見る」という一節があり、こういった漢詩に精通している事が平安時代の知性のある女性とされていましたが、ある雪の日一条天皇の正室定子がただ雪見するだけではつまらない。何か面白い趣向はないかと思案し、この白居易の漢詩からヒントを得て清少納言に「少納言よ香炉峰の雪はいかがであらうか」と問い掛けました。すると清少納言は直ちに目の前の簾をサッと引き上げ、皆の眠前に真白い雪の庭が広がり、定子は大いに満足し、清少納言を褒めたたえたというシーンでありました。このシーンは清少納言の「枕草子」の第280段「雪のいと高う降りたるを」の有名な話から取られており、ドラマを見ていた私も少々驚いた次第であります。「枕草子」はこれ以外にも第1段「春はあけぼの」が非常に有名で日本の四季を描いた名文であります。「春は明方が良い、徐々に白くなっていく、山際が少し明るくなって紫かかった雲が細くたなびいている景色が良い。夏は夜が良い。満月の頃は言うまでもなく、新月の頃であっても蛍が飛ぶ光景が良い。秋は夕暮れが良い。夕日が山の端に近づく所にカラスが2羽3羽と飛んでいくのに趣がある。冬は早朝が良い。雪の降ってる朝は言うまでもなく、霜で真白な朝、火をおこして運びまわる光景が良い」という様に文章が綴られています。日本は他の国以上に四季というものがはっきりしており四季について語られる事が多い様であります。「枕草子」以外にも吉田兼好の「徒然草」にも「をりふしの変るこそ」といった文章があります。また最近の歌謡曲でも四季を題材にしたものがたくさんあります。日本の四季のうちいつが好きかと聞かれると大体春や秋が好きという人が多いと思いますが、夏や冬と答える人も結構いると思います。ただ6月の梅雨の頃が好きという人はまずいないと思います。連日雨が続き、どんよりとした空を毎日眺めるのはうっとうしいものでありますが、この梅雨があるからこそ稲などの農作物が育ち水不足にならず生活できるのであります。私自身は雨の日はそんなに嫌いではありません。パラパラと落ちてくる雨の音を聞きながら、物思いにふけったり、読書をしたりするのもこれはこれで良いと思っています。そう今月は誰からも嫌われる6月であります。連日の雨に加え寒暖差も激しく、食中毒を起こしたりして体調を壊すのもこの季節であります。皆様方もこれから一層体調管理に気をつけてこの梅雨の時期を過ごしていただければ幸いです。

院長 西村 章

保険点数の大幅改定があります。お支払い金額が変わる方がおられます。ご不明な点がございましたら遠慮なく受付までお申し出ください。なお診察時の電話でのお問合せには応じかねます。悪しからずご了承ください。

いまの保険証は廃止されます。マイナンバーカードでの受診をお願いいたします。

発行元 西村クリニック  
〒5750023

四條畷市楠公1丁目14番6号  
072-862-3001  
@365decem